

多摩支部会報

平成29年度代議員総会号

平成29年 8月吉日 発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏



向殿校友会長 挨拶

7月29日の懇談会、30日の代議員総会の概要を小平地域支部長 土井隆夫氏が取りまとめたので紹介します。(紙面の都合上原稿を大幅に圧縮しています)

両日とも冒頭に挨拶された村山富市名誉会長は、最近階段で足を痛めたということで車椅子でのご出席でしたが、93歳とは到底思われぬ元気な声で、大学を取り巻く環境が厳しい中、明治は頑張っている、常に明治は前へ、前へだと力説されました。前日の懇談会は、リラックスした雰囲気の中で行われ、向殿校友会会長は簡単な挨拶で終わり、柳谷理事長と土屋学長はそれぞれの立場の状況を話しをされ、また土屋学長は後で「明治大学の世界化に向けて」と題して30分程度の講演をされました。

柳谷理事長は、冒頭、豪雨被災地支部からの参加謝辞後、2016年度は受験者数の増加や光熱水費等のコスト削減などで14億6千万円の黒字にできた。2017年度からの授業料改訂や定員増認可等により2020年度以降の赤字シュミレーションが改善され、2018年度からの中期計画策定にあたり、創立150周年を見据えつつ明治大学の長期ビジョンを踏まえ、教育研究環境の改善向上に向け、様々な改革に取り組んで行くこと述べられました。

土屋学長は、大学財政の基本は学生の納める受験料・入学金・授業料であり、いかに多くの学生に受験してもらい入学してもらえる大学にして行くかである。18歳人口の漸減や文部科学省による入学定員超過率の厳正化(特に東京区23内大学の定員増抑制)など私学を取り巻く環境の変化に対し教育・研究改革に関する建設的なビジョンを強く発信することが重要と力説され、後の講演で詳しく話すこと述べられました。

その後、新設された3つの地域支部(佐野・幸手・佐久)への旗の授与、報告事項の説明があり、土屋学長の講演となりました。

土屋学長の講演は、「明治大学の世界化に向けて」と題して、女子学生対策と国際化特に英語強化について力説されました。2017.8.6号のサンデー毎日に掲載された阿木燿子さんとのインタビュー記事の内容“学長という役職は大学のプロデューサー”を交えて話されました。

総合大学志願傾向の女子学生をいかに多く入学させるかにかかっている、法曹界で最初の女性弁護士や女性裁判官を育てたのは明治大学、キャリアウーマンの草分けなんです。現在、女性比率は文学部や農学部は50%、国際日本学部は65%です。そのための大学設備の充実が必要で生田・中野・和泉の各キャンパスの整備、リバティタワーももう古くなった。それと国際化特に英語力強化だ。まだまだ早稲田などに追いついていない状況を改善していく(和泉地区での混住型国際学生寮、マニラ英語研究センター、留学充実など)。そのためには、資金確保が必要。大学の抱える問題として70%の学生が1都3県出身、地方から学生集めるため地方行脚している、校友会弟の入学などいろいろ考えて行く。女子学生集めも明治のバンカラのイメージの明大節は似つかわしくない、前への標語も東洋大学はさらに前へと使っている。とにかくいろんな工夫をして資金を集め、設備を充実して多くの学生に来てもらえる大学にして行く、プロデューサーとして頑張るって行くこと講演されました。

代議員総会では、柳谷理事長は学生への奨学制度の充実、土屋学長は海外出張特に国連総長との面談など話されました。

向殿校友会会長は、全国54県単位支部及び韓国・台湾の海外2支部、222の地域支部が組織され、学生、教職員、保護者、校友、明治大学に関わる全ての関係者が「明治はひとつ」の合言葉のもとで結集しようと呼びかけました。明治はひとつは本当に団結を感じます。校友会においても、海外支部新設や地域支部増加、校友全国大会の盛り上がり、徐々ながら女性・若手の出席など見られたのは嬉しい。

審議事項は全て承認され、全国校友大会について今年の沖縄と来年の石川の両支部がPRされた。三代卒業生表彰では、親子孫三代2組・兄弟三人1組が表彰され、皆様が明治大学大好きな家族環境の中で育ち自然と育まれて来たこと、特に大阪の三兄弟表彰の中でコメントされた田邊さんは同志社大学希望であったが図らずも明治が合格し苦悩したことを面白おかしく話され会場が爆笑でした。(土井隆夫 小平・昭45年・商)

2017年度代議員総会に参加して

町田地域支部長 小川紳夫（昭46年 文）

7月30日（日）、リパティタワー1階で校友会代議員総会が開催された。地元自治会の催しと重なっているので、時間を気にしながらの参加になった。

10時に開会し、村山名誉会長の歯切れのよい挨拶、向殿校友会長の心のこもった挨拶、柳谷理事長の聴く人を魅了する祝辞、土屋学長の改善意欲あふれる祝辞があった。各地から参加の代議員諸氏が最も聞きたい内容であろう。挨拶・祝辞に続いて議事が審議された。わかりやすい総会資料が事前に手許に届けられているので、特に質疑もなく14時にはすべてが原案通り承認された。

エアコンがしっかり効いたホールであったが、木製の椅子が固くて狭い。正直このくらいの時間が限界。全国の代議員600名中、401名が出席し、委任状は170名とのこと。出席が多いのは無論。欠席でもしっかり委任状を出している。「さすが明治大学校友会の代議員」という思いを強くした。

親・子・孫3代や3兄弟卒業表彰、鳥取から沖縄への全国校友大会旗のリレー、万歳三唱、肩を組んでの校歌と進むころには、「明治はひとつ」の空気が会場に充満していた。

帰途、多摩支部から参加の面々と「御茶の水」で冷たいビールを堪能。帰宅後、遅刻したものの地域行事にも参加でき、充実した一日であった。

親子孫三代表彰



東京都多摩支部長推薦

明石 尚可（昭35・商学部商学科）
明石 修（昭62・商学部産業経営）
明石 匠平（平29・総合数理学部現象数理）



大会旗リレー

（全国校友鳥取大会から
全国校友沖縄大会へ）

支部長等懇談会並びに2017年度定時代議員総会に出席して

小平地域支部長 土井隆夫（昭45年 商）

村山富市校友会名誉会長は、93歳とは到底思われないう元気な発声で激励されました。どうかいつまでも元気でいてほしいです。

両日の会議ともリラックスした雰囲気の中にも緊張感あって行われました。

向殿校友会会長は、「明治はひとつ」のもとで結集しようと呼びかけられ、明治の団結の強さを感じましたし、柳谷理事長は、創立150周年を見据えつつ様々な改革に取り組んで行くと、改革の決意が感じられましたし、

土屋学長は、和服姿で、大学のプロデューサーとなって改革実行すると述べられ、土屋学長色を十二分に発して改革断行してほしいです。各発言内容から明治の前へ進む姿が感じ取れました。

校友会においても、海外支部新設や地域支部増加、校友全国大会の盛り上がり、徐々ながら女性・若手の出席など見られたのは嬉しい。特に三代卒業生表彰ではこんなに明治大学を愛する家族がいることを感心しました。孫の1人でも入学してくれないかなー。

2日間の会議で、明治大学の現状と課題が少しでも理解でき、校友会の一地域支部の運営そして一校友としての責任を常に前への精神で取り組むことの重要性を改めて考えさせられました。

編集後書



2017年度の代議員総会、前日の懇談会が、海外支部・豪雨災害下の福岡県、大分県、秋田県等も含め全国から非常に多くの校友が母校に集い、事業報告・決算、事業計画・予算等につき原案通り可決承認され、また、全国校友大会旗も鳥取県支部から沖縄県支部にリレーされた。沖縄大会により多くの校友の参加を期待！！申し込みは8月31日までですから、間に合いますよ。多摩支部から両日で延べ30名位の校友が出席しました。お疲れ様でした。村山元総理の「未だ93歳」のお気持ちに敬意を表し、早期のご快復を祈念します。

多摩支部広報（委） 飯田光宏（昭39年 法）